

【論文提出者】 社会文化科学研究科 人間・社会科学専攻 公共政策学領域
VU NAM (ブーナム)

【論文題目】

Planning for Regional Development by the Promotion of Amenity Migration and
Endogenous Factors

(アメニティ・マイグレーションのプロモーションと内発的要因による地域開発計画)

【授与する学位の種類】 博士 (公共政策学)

【論文審査の結果の要旨】

ヴ・ナム氏の Planning for Regional Development by the Promotion of Amenity Migration and Endogenous Factors (アメニティ・マイグレーションのプロモーションと内発的要因による地域開発計画) は、ベトナムにおける農村地域の所得・生活水準の向上を目指した政策の理論的枠組みの検討と実証的研究を総合した論文である。

この論文の特性は次の点にある。第一に、地域開発における外部要因と内部要因の相互関係とそれぞれの役割を論じたこと、第二に、アメニティ・マイグレーションと内発的發展論を連関したものとして論じ、それをベトナムの農村地域の発展に応用し、今後の方向を分析しようとした点である。

氏は、まず第一章で、本研究のバックグラウンドを三点に整理している。一つは農村における地域開発はグローバリゼーションを背景として世界で必要とされていること、二つ目に、ポスト工業社会においてはライフスタイルの価値観が変化していること、三点目に、新たな観光形態としてアメニティ・マイグレーションが世界のトレンドになっていることの三点である。このようなバックグラウンドを踏まえて、本研究は課題としてベトナムにおける農村あるいは山岳地域などをどのように開発していけばいいのかという問題を立てる。

第二章では地域開発の視点からツーリズムとアメニティ・マイグレーションの先行研究を検討する。これは新しい観光のトレンドを解明することを目的としており、日本の例なども取り上げられる。第三章では、このアメニティ・マイグレーションの運動を、日本の一村一品運動などを代表とする内発的發展論を関連づけて検討する。第四章では、サパ・ヒル・ステーションの事例研究を通じて、ベトナムにおける外部要因と内部要因の連動による発展の可能性を探る。第五章では、本論文の結論として、地域アメニティと内発的發展に向けてクラフト・ツーリズムなどのモデル化が要請されることを提言として述べ、論文を結んでいる。

地域の経済発展とアメニティや固有の文化の維持の両立は困難な課題であるが、今最も求められている課題でもある。氏の論文は、行政官として、この問題に取り組むための理論的・実証的検討を行い、今後ありうべき地域開発のあり方を具体的に探ったものとして高く評価できる。よって審査委員会として博士學位論文として合格と判断した。

【最終試験の結果の要旨】

最終試験は、1月20日に審査員全員の出席のもとに行われた。ヴ・ナム氏のプレゼンテーションの後、各審査委員から質問があった。質問の主な論点は、ナム氏の論文がベトナムにおけるアメニティ・マイグレーションの可能性を扱ったものであったため、先進国で始まったアメニティ・マイグレーションという動きがベトナムに適用可能かどうか、また論文で主に取り上げているベトナムの代表的観光地であるサパのベトナムにおける位置づけはいかなるものかなどをめぐるものであった。

ナム氏の回答はいずれも満足のいくものであり、審査委員一同、この論文が博士学位論文として合格であると判断した。

【審査委員会】

主査	伊藤	洋典
委員	鈴木	桂樹
委員	渡部	薫
委員	岩岡	中正
委員	徳野	貞雄